

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社 アムケア	評価実施年月日	平成19年8月15日
評価実施構成員氏名	村岡暁子、賀数美千代、小松稚恵子、山田美恵子、谷口千秋、谷内賢一、阿部明子、鳴海妙子		
記録者氏名	村岡暁子	記録年月日	平成19年9月28日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ゆったり寄り添い 慈しみあって 暮らしていきたい 自分らしく 誇り高く 生きいきととの理念に基づきプランを作り支援を実施している。	馴染みの関係作り、地域とのふれあい、個別の買い物、外食などの支援
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	プランの根底は理念で、日々のケアでプランを実行している。皆で取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を見易い所に掲げている。運営推進会議にて伝えている。近所の方との出入りがある。家族とのコミュニケーションが取れている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時に挨拶を交わしたり、趣味活動や行事のあるときにはお呼びしたり、お茶飲み話で立ち寄ってくださる。日常的なつきあいがある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内のお祭り、ゴミ置き場当番、古紙回収、回覧板、ゴミ拾い、小学校での鈴虫交流会、中学校からのボランティア活動受け入れ、保育園児との交流など。開設時から町内会に入会。	○ 他にも地域活動を積極的にやって行きたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	まどべの行事のときは必ず近所の高齢者の方に声がけしている。歩道の花壇の水遣りなど、町内の方々は手が回らないとお聞きして、やらせていただいている。	○ 運営推進会議、行事などを通してもっと交流できると良い。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義は皆で理解している。改善すべき点など必ず皆で共有し話し合っ具体的実施している。(包丁の保管場所、行事などのお知らせを通る人にわかるように、など)</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>利用者やサービス状況、外部評価や制度上のことなど報告し、地域からの助言やご意見を真摯に受け止め、活用している。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の管理者連絡会の代表、厚別区の管理者連絡会の18年度の代表を務めた。又、道の協議会の理事をさせて頂いているので市の担当者との行き来が多く、質の向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会や外部の研修会で学んでいる。一人の入居者に成年後見人がついている。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>学ぶ機会はある、常に職員間で話し合い、見過ごすことのない様、観察力を高め、防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族が相談や不安を言いやすいように職員からの話しかけや説明を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者は日常的な些細な事柄など管理者や職員にその都度訴える機会があり、職員は傾聴し、申し送りで話し合い、共有して解決すべく運営に反映している。</p>	○	<p>外部者、例えばオンブズマンなどの体制があれば良い。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月お便りで暮らしぶり、健康状態、金銭管理などを伝えている。健康状態、職員の移動などは随時、来訪時や電話で伝えている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見箱を設置している。それよりも直接来訪時などに伝えてくださるほうが多い。家族からの意見などは必ず申し送りで共有し対応している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>勉強会、カンファレンスは職員が全員集まる会議なので意見交換の機会であり、反映させている。</p>	○	<p>全員が集まる機会なのでこれからも続けたい。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>管理者は介護業務や夜勤業務を持っていないので、状況の変化や要望に主に管理者が柔軟に対応できている。又、職員も状況をよく理解し、協力的である。</p>	○	<p>ボランティアが増えると個別の要望にもっと柔軟に対応できると思う。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>配慮をしている。異動や離職はあまり無い方だと思う。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修や学習の機会はできる限り確保することに努めている。人材育成は質の向上、事業の運営にとって重要と認識している。	○	利用者の関わりを通して、これからも都度職員同士で学んでほしい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	厚別区のグループホームでお互いの職員を受け入れる見学実習をしており、大変参考になったようである。合同勉強会もあり、又空き情報や色々な相談をしやすいネットワークが作られている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	虐待や火事のニュースがあると、我々も率直に心身状態を話し合い悩みを共有して、抱え込まない配慮をしている。忘年会の実施。行事は職員も楽しめるよう工夫している。職員同士の笑顔で救われている、とのこと。	○	有給休暇をなかなか消化できない現状がある。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は、職員にモチベーションを持って仕事に取り組んでもらいたいと努力や実績を認める声掛け、取り組みに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談・見学のときは家族のみだったとしても、その後本人を連れて見学に来ていただいたり、雰囲気や要望にあっているかをみる時間を過していただいている。思いを聴き、受け止める機会つくりの努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	上記に同じで、相談、見学を通して受け止める努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	例えば医療との連携、家族の介護負担軽減の緊急性、共同生活上の不安点など、相談を受けたことには誠意を持って対応に努力している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	数日間、送迎をしてデイサービスのように過して頂き、本人の納得を得てから入居となった方がいる。又、生活リズムを今までの習慣どおりに尊重しながら馴染んで頂き、安心して暮らせる所なのだと言ってもらえるよう、家族とも相談し工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	まどべの理念である。利用者主体であることを念頭に入れ支えあい、思いを汲み取り共に過している。その中で、経験や知恵から教えられたり学んだりする場面が多い。		
28 ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	お便りや来訪時などで、様子やケアプランなどを説明し、提案や要望を伝えて頂き家族の思いを汲み取り、一緒に支えていく関係作りに努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員は家族来訪時にコミュニケーションを良くとり、良い家族関係取れるよう配慮している。家族の事情もあり来訪の少ない家族にも電話やお便りで家族関係が希薄にならないよう支援している。	○	嫁姑で確執の関係にある家族がいるが今後も工夫して支援していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や親戚などの来訪、家族と共に自宅に行く、など希望に添えるよう支援している。ふるさとの馴染みの場所を探す徘徊の症状であっても大切に受け入れ、思いを共にする支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気が合う人同士が交流する場面、孤立しがちな人が関わりあえる機会など把握し仲立ちをしたり機会や場面作りを日常的に配慮している。個々に楽しみながら共同生活をも楽しめる雰囲気作りを大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	まだベⅡに転居された方に再会する機会を設けた。皆様、懐かしそうに手を握り合っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位の視点で支援している。日頃のコミュニケーションから思いなどを把握してプランにも反映している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人らしい暮らしや尊厳を支えるため、これまでの生活状況の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に観察し、報告し合い、有する力を見極め、総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の求めていることを把握し、又、職員の気づきを話し合い、本人本位の介護計画になるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的または随時の評価、本人や家族の状況や要望の変化に応じた見直しを行い、現状に適したプランになるよう話し合っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録には身体状況や様子、表情や会話など具体的に記入し、ケアやプランに生かして活かしている。		緊急時に個人記録を持参する。診療に必要な情報がファイルされている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族が集まる拠点になったり、宿泊したり、と要望に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、ふくまち支援センターの方々の見学があり、理解がある。警察(交番)に利用者で行って周知してもらうよう努めた。消防訓練・救急救命法の実施や、学校からのボランティア、趣味活動のボランティアに来ていただき、本人の意向に沿った支援を心がけている。		生け花・茶道・陶芸・大正琴のボランティアが馴染みの支援となっている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護保険制度は使えないが、訪問理美容、マッサージなど、個々の意向や必要性に応じた社会資源を活用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にて報告し合い地域包括支援センターと協働体制にある。	○	個々の意向に応じた具体的な協働は未だ発生していない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>地域の提携医、訪問看護ステーションと相談しながら健康管理、受診、家族への説明などの支援をしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>精神科医の定期往診があり相談しながら適切な対応ができるよう支援している。</p>		<p>治療の方向性や薬の助言を頂く事は、統一したケアをする上で重要です。</p>
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>近くにある訪問看護ステーションを利用している。日常の健康管理とドクターとの連携、24時間の電話対応など活用しており、気軽に相談しながら支援している。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>情報交換や相談に努め、早期退院に向けた話し合いをしている。医療機関との連携は密にしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に向けた指針は取り交わしている。緊急時に運ぶ病院の希望を取っている。</p>	○	<p>最期はどこで迎えたいか、どこまでの治療を望むか、個々の話し合いが必要。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療との連携、介護者のできること、事業所としての体制、家族の協力・理解など、チームとして取り組まなければならない。看取りの経験は無いが終末期ケアに取り組んできた。</p>	○	<p>本人・家族の希望があればホームでの看取りに取り組む準備をしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>リロケーションダメージを最小限にしていける為に情報交換や話し合いをし、環境整備に努めている。馴染みの家具や大切にしているもの、その人らしさの表れているもの(手芸道具、書類、楽器など)などを持ってきて頂く。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に心がけている。本人や家族の誇りを傷つけない、本人が思っている現実を否定しない対応などに配慮している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その方のわかる力に合わせた働きかけをして、日常の場面の中で自己決定したり、選択したり、達成感を感じていただく機会を作っていく工夫をしている。</p>		<p>着る服、買物、レストランにて、座る椅子、メニュー、散歩コース、食事介助時</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>外出、買い物、入浴などの希望には職員の都合を優先しないよう努めている。本人のペースに合わせて、ゆったりとしたケアを心がけている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容院、床屋に行く方もいてお連れしている。季節感や生活場面に合ったその人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の希望や力を見極めながら、共に買い物したり、調理したり、味見、盛り付け、後片付けなど、楽しみながら、会話しながら、進んでやってくださる。また、食事が楽しくできるような話題や雰囲気作りに配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつなどの買い物支援、本人の嗜好に合わせた飲み物など楽しんで頂くよう支援している。アルコール類も本人の希望に合わせている。居室には家族が持ってきた食べ物、飲み物あり、賞味期限などに気をつけている。		行事や記念日などには、ビールなどで乾杯し楽しんでいただく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄記録を作成し、排泄パターンを把握し、それに基づきトイレ誘導をしている。夜間も時間を見てトイレ誘導している。尿・便の観察をし、水分摂取にも留意している。		訴えてくれない方のサインを見逃さず、トイレ誘導している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望にあわせたり、自ら訴えない方にはタイミングに合わせている。くつろいだ入浴ができるよう支援している。		例えばカットした後、髪の毛でチカチカしないよう入浴できる配慮をしている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	申し送りや観察で夜間の睡眠状況や体調を把握し、日中の休息や睡眠に配慮している。その方の習慣やその時々状況に応じ、居間のソファやソファベッド、または居室にて休んでいただいている。夜間の良眠に繋げるための配慮もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割や張り合い、喜びのある暮らしができるよう、存在感が実感できる場面やきっかけ作りを支援している。そのために、日々のアセスメント、情報の共有に努める。		気晴らしとして、家事、好きなテレビ、園芸、喫茶店、カラオケ、キャッチボール
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分でお金を持つこと、張り合いを職員は理解している。自己管理している方もいるが、認知症の進行に伴って困難になった方もいる。その方の希望や力に応じて、買い物や支払いに同行して見守りや声かけの支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	戸外で過ごす時間の有益さを職員は理解しており、散歩や買い物など日常的な外出を支援している。その方の希望や歩行力に沿って、距離や行き先、手段は夫々である。玄関先のベンチで日向ぼっこだったり、行き先がスーパーだったり喫茶店だったり、車椅子で散歩だったりしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	墓参りや温泉、いとこ会、会食、ショッピング、ドライブなどに家族と共に出掛けている。又、個別に喫茶店でコーヒーとおしゃべりを楽しんだり、選挙の投票に行ったりを支援している。サクランボ狩り、レストラン、ショッピング、カラオケ、花見、サーカス、水族館、動物園など皆と出掛ける機会も作り支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	自ら電話をかける方、手助けの必要な方など、本人の希望に沿って日常的に支援している。荷物が届いた時には必ず電話をし本人にも会話していただく。手紙を書く支援もして相手との良い関係が継続するよう支援する。プライバシーにも配慮する。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	職員は明るく挨拶をし、利用者の馴染みの方々を大切に思っている。居室でリラックスして過ごしていただいたり、時には居間で気軽に交流できるような雰囲気心がけ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを念頭に入れ取り組んでいる。	○	新しく採用した職員もいるので、何度でも勉強をする機会を持ち徹底していく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	身体拘束であることを理解している。不意に出ようとされた時にも職員はすぐ共に出掛ける対応が習慣になっており、施錠はしない。外の空気を吸い、歩くことで気持ちが穏やかになる、又、出掛けたいという思いを尊重することにより、心理的圧迫をもたらさないことを、職員は理解している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーを守ることは基本的なことであり、その上で利用者の安全や所在や様子の把握に努めている。職員同士で声掛け合い、記録書きをしている時も、調理に入っても、他の方の介助をしても、目配り、気配りをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、洗剤、包丁、火気など注意の必要な物は保管場所、管理方法など取り決めている。又、その方の状況に応じて、本人や家族の了解のもと危険を取り除くよう工夫している。(はさみや家族が持ってくる売薬など)		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態に応じた事故防止対策は勉強会やカンファレンスで共有し取り組んでいる。転倒、窒息、誤薬、行方不明など、ヒヤリハット報告を元に再発防止を話し合い、ケアの改善につなげている。火災は個々の点検意識が大切と話し合った。	○	のどもと過ぎれば・・・に陥らないよう、繰り返し学ぶ機会が必要である。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署との連携で、消防訓練、救急救命法、AEDの使用法の講習を受けている。又、採用時研修として急変時の手当て法を勉強している。壁に貼ってもある。	○	講習を受けてもとっさに対応できない。定期的な講習の継続が必要である。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	職員間では話し合っている。避難場所は決めてある。運営推進会議のテーマとして地域の方々に参加していただき協力を得られるよう働きかけていく。	○	今後地域の方々の理解と協力を得られるような定期的な働きかけを継続したい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ヒヤリハットの内容や予測されるリスクについて電話や訪問時に説明している。抑圧の無い暮らしを支援するために家族と共に対策を話し合い了解をいただいている。	○	ハード面ではADL低下・判断力低下に伴う階段からの転落のリスクが高くなってきたため、エレベーター設置の必要性が出てきている。検討中である。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定時と随時のバイタルチェック、表情や声や様子、排泄状況などの引継ぎ、観察を徹底している。異変に気づいたときには速やかに情報を共有し、速やかに対応するよう努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用や用法について理解している。個人記録簿にファイルしてあるので、随時確認できる。一人一人支援の方法が違うことや、副作用による症状の観察など職員間で知識と情報を共有している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は便秘が及ぼす影響を理解しており、原因を探り予防に努めている。水分摂取量の記録や体操や散歩、笑うことなどの活性の大切さを心得て、対応を工夫している。又、入浴時に腹部マッサージを行うなど個別対応もしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、一人一人の力に応じ声掛けや見守り、介助などの支援をしている。職員は口腔内の清潔が誤嚥性肺炎の予防になり、おいしく食事ができる為に大切なことを理解している。その方の口腔状態やにおい、出血、炎症や本人の訴えなどの観察を日常的に行っている。	○	口腔ケア(嚥下、咀嚼の問題も含めて)をテーマに専門家を講師に呼び、実践に即した勉強会を行った。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量、食事摂取量を記録して、一人一人の適量を観察している。栄養バランスを考慮したメニューを一人一人の状態や力、習慣に応じて粥、刻み、摩り下ろし、とろみなど、又、大きさや量、好みのメニューへの変更など対応している。飲み物も好きなものが飲めるよう工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年利用者・職員共にインフルエンザワクチンを接種している。採用時の職員の肝炎の検査実施。トイレ使用后、帰宅後、調理前の手洗い励行、必要時のビニール手袋の着用は日常の習慣になっている。手すり、ドアノブなど皆が触れるところの消毒殺菌を必ずすることが習慣付けられている。(ピューラックスほか)		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日調理器具、フキンなどの消毒殺菌をしている。冷蔵庫の掃除、在庫チェックは当番制で週1回行い、賞味期限の把握をしている。買い物は毎日、その日のメニューに合わせて購入しているので、いつも新鮮な素材を使用している。	○	食中毒の季節に合わせて、生もの(刺身など)や二枚貝(カキ、帆立やアサリなど)のメニューを避けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	威圧感、閉鎖感はなく、出入りしやすい。玄関周りにベンチを置き、近隣の人も一休みしたり、交流したりと親しみやすい雰囲気がある。夫々の履物は靴箱に収納され、玄関内は整頓されている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは広く、畳のスペースもあり、ソファでくつろげるスペースもある。カレンダーや額絵、季節にあった花や手作り品で家庭的な雰囲気があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	台所は対面式なので利用者が炊事にに関わりやすく、開放感がある。テレビを見たり、洗濯物たたみをしたり、お茶を飲んだり、季節にあった花を飾ったりと思い思いに過ごせる空間となる工夫をしている	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が居心地よく過ごせるよう、馴染みの家具や好みのものが夫々のお部屋にある。居室にテレビ、冷蔵庫、仏壇、ソファなど持ち込まれ、居心地よく過している。	その方の状況に応じて、リスク回避のために本人・家族と相談して居室の環境整備を行うこともある。居心地よく過ごせる工夫のひとつでもある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の掃除のときに換気したり、暖房の調節、湿度の確保など、こまめに行っている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関、トイレ、浴室、階段にはすり、玄関内の椅子、浴槽内の滑り止めマットなど、安全にできる限り自立した生活が送れるよう工夫している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や戸惑いのサインを見逃さず、必要な導きや手伝いがあれば自分の力を生かして安心して暮らしていただける。できること、やりたいこと、理解力、可能性など把握し、本人自らが取り組めたという実感を感じていただけるような環境作りを工夫している。</p>	<p>○</p>	<p>職員には一人一人のわかる力を見極める力量が必要である。力量の差が無いよう、心をこめて仕事に当たるよう育成して行きたい。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関先のベンチでの交流、庭の草取りや花畑の世話、野菜作り、庭の水遣り、庭でのジンギスカンパーティー、洗濯物干しなど、役割やその時々のお気持ちで活動している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>受け入れの気持ちで関わりを多くして支援し、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>触れ合ったり、コミュニケーションを多くとり、ゆったりと過ごす場面を持つように心がけている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>今までの生活のペースや習慣を大切に、一人一人のペースで暮らしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>その方の活躍の場面を作ったり、自信を高めるような声かけ、一緒に喜び合い、感謝の気持ちを伝える心で接することにより、笑顔が増え、自分の考えを言われたり、生きいきとした表情になる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>散歩はその方の歩行力や希望に合わせて毎日出掛けている。又、ドライブや買い物や喫茶店、床屋、病院など、できる限り実施している。これには、プランなどを了解して下さる家族の力も大きい。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>月1回の内科医往診、月1回の精神科医往診、週1回の訪問看護(24時間対応)、毎日定時と随時のバイタルチェック、年に1回の健康診断、インフルエンザ予防接種、異変があったときの医療との連携により速やかな対応で不安無く過ごせている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>その方の特徴や状況や要望を理解し、柔軟に対応することにより不安や混乱を和らげ安心して暮らしていただいている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>ほぼ全ての家族と信頼関係ができ、困ったことや希望など話して下さる。職員は共有してケアに生かすよう努めている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>家族や親戚、友人や介護ボランティア、趣味のボランティア(いけはな、茶道、陶芸、大正琴)、近所の方々(お花や木の实、鈴虫、雑巾、お手玉など下さるの方々)、ミニコンサートなど、来訪される方が多い。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>地域からは開設当初から理解をいただいていたが、運営推進会議を通して注目度が深まったと思う。利用者や職員に挨拶や言葉がけをしてくださる近所の方が増えた。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>管理者(経営者)から見て、職員はとてもよく働いていると思う。利用者や家族の気持ちを理解し、活力や笑顔を引き出す為の工夫に努め、そのためのスキルアップを望んでいる。支援が空回りして落ち込んだり、体調不良のときなど、リフレッシュ休暇が取れないのが悩みとのこと。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>おおむね満足していると思うが、その時々で十分ではない場面があると思う。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>全ての家族に満足していただくことを目標にしているが、これからも家族の思いや要望を汲み取って行きたい。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

認知症になったから仕方が無いではなく、活性化、介護予防を視野にいれ取り組んでいる。状況を判断しながらの毎日の散歩、家事ややりたいことを支援する場面作り、毎日のアクティビティー(日々、体操や歌やゲームを考えている)、足浴など。そして、何年も続けてボランティアが来てくれることも有難い。生け花、茶道、陶芸、大正琴、音楽療法(プロ)、ケアのボランティア(2人)、保育園、小学校、中学校など外部の方々との交流が良い刺激となっている。近所の方にも声をかけ一緒に楽しむこともある。又、利用者とともに楽しめる行事のアイデアを出し合いながら企画している。職員はユーモアのあるコミュニケーションで利用者の笑顔を引き出すケアをしている。